



平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 豆蔵ホールディングス

コード番号 3756 URL <http://www.mamezou-hd.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 荻原 紀男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務・経理部長

(氏名) 南口 和彦

TEL 03-5339-2100

四半期報告書提出予定日 平成26年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	2,810	34.3	209	53.4	199	74.5	104	103.5
26年3月期第1四半期	2,092	△6.6	136	△17.9	114	△23.8	51	△46.7

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 114百万円 (91.7%) 26年3月期第1四半期 59百万円 (△38.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	5.98	5.84
26年3月期第1四半期	2.94	2.85

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
27年3月期第1四半期	7,405		3,823		51.3	
26年3月期	6,600		3,765		56.7	

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 3,801百万円 26年3月期 3,741百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
26年3月期	—	0.00	—	6.00	6.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	0.00	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,000	9.0	350	△19.6	350	△5.9	200	5.6	11.47
通期	12,000	20.2	1,170	12.4	1,200	16.9	700	20.3	40.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期1Q	19,081,200 株	26年3月期	18,951,600 株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	1,506,600 株	26年3月期	1,506,600 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期1Q	17,447,716 株	26年3月期1Q	17,415,784 株

(注)当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っており、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、緩やかな回復基調が続いており、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつあるものの、海外景気の下振れが引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている状況にあると思われま

す。情報サービス産業では、第161回全国企業短期経済観測調査（日銀短観）によると、2014年度のソフトウェア投資計画額は、対前期比でおおむね増加傾向といえます。一方、経済産業省の特定サービス産業動態統計（5月分）によると、「受注ソフトウェア」については、売上高が前年同月を7カ月連続で上回っており、業界としても景気回復基調に入ってきたように思われます。

このような状況の下、当社グループは、技術力世界一を目指しつつ、最新のコンピュータ技術を駆使し情報サービス事業を通じて、お客様企業の業務を変革するサービスの提供を行うとともに、半導体事業を通じて、モノづくりを支える半導体製造装置の保守・メンテナンスサービスの提供を行ってまいりました。年度初めである第1四半期においては例年、お客様企業のソフトウェア投資が鈍化する傾向にありますが、当第1四半期連結累計期間は堅調であったと思われま

す。この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は、2,810,694千円（前年同期比34.3%増）、営業利益は、209,563千円（前年同期比53.4%増）となり、経常利益は、199,073千円（前年同期比74.5%増）、四半期純利益は、104,334千円（前年同期比103.5%増）となりました。

各セグメントの業績は次のとおりです。

① 情報サービス事業

情報サービス事業では、売上高は2,449,375千円（「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含まない外部顧客への売上高（以下同じ））（前年同期比32.9%増）となりました。

以下では、情報サービス事業における売上高と概況を部門別に記載します。

(ビジネス・ソリューション部門)

前期から引き続き、事業法人向けの基幹システム刷新に係る基盤構築案件が堅調です。金融業のお客様企業から始まり、現在では製造業やサービス業の大手お客様企業の案件も並行して走っています。

音楽配信・映像配信ソリューション事業も、当社グループ独自のDRMエージェント（著作権管理された動画や音楽をスマートフォン上で再生するミドルウェア）の販売やクラウド化、暗号化、配信の高速化といったトータルソリューション提供により好調です。

また、平成26年6月19日付でお知らせしております通り、当社と当社のグループ会社である株式会社ネクストスケープ（以下ネクストスケープ）、日本マイクロソフト株式会社は、クラウドベースのコンテンツ配信ソリューション Nextscape Media Delivery Suite（以下「Nextscape MDS」）を共同開発しました。ネクストスケープはNextscape MDSを2014年7月より、インターネットを通じた動画・音楽などのコンテンツ配信を行うメディア企業、コンテンツ事業者、教育機関、医療機関などに向けて販売するとともに、今後、販売促進活動を他の2社とともに共同で展開してまいります。

その結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は2,264,658千円（前年同期比36.8%増）となりました。

(エンジニアリング・ソリューション部門)

期初における研究開発投資がやや低調であり、ビジネス・ソリューション部門への応援に一部工数を振り分けております。自動車向けのコンサルティングは堅調です。産業用ロボット向けソフトウェア技術支援が確立しつつあり、医療用ソフトウェア案件も始まり、これらの分野で巻き返しを図ってまいります。

その結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は、106,281千円（前年同期比20.6%減）となりました。

(教育ソリューション部門)

システム事業社向け新人教育が好調です。また、コースウェアの刷新を図ってまいりましたアジャイル開発等の近年力を入れてまいりましたコースウェアや、公共向け人材育成及び反復型開発理論の実践コース等が好評で、従来教育に加えて新たなサービス展開ができつつあります。

その結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は、78,435千円（前年同期比47.6%増）となりました。

② 半導体事業

日本の半導体メーカーでは、円安といった経済環境の変化の他、スマートフォンやタブレットPC等の需要を背景に生産が回復し、新規の設備投資も始まっています。

このような状況の下、アプライドマテリアルズジャパン株式会社からの受注確保に努めるとともに、国内半導体メーカーからの半導体製造装置の修理、部品の販売、ファクトリーオートメーション化のソフトウェア開発等に注力しつつ、オランダに本部を置くエーエスエムエル・ジャパン株式会社からの新規受注を獲得しました。また、海外の半導体製造メーカーに対してもアプローチを行っております。

その結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は、361,318千円（前年同期比44.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて、15.4%増加し、4,770,927千円となりました。これは、主として、株式会社メノックスを取得したことなどにより「現金及び預金」が268,682千円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて、6.8%増加し、2,634,773千円となりました。これは、主として、株式会社メノックスを取得したことなどにより「のれん」が79,229千円増加したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて、12.2%増加し、7,405,700千円となりました。

② 負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて、22.8%増加し、2,945,153千円となりました。これは、主として、販売用の商品が増加したことなどにより「買掛金」が365,203千円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて、45.6%増加し、637,175千円となりました。これは、主として、株式会社メノックスの取得に伴う銀行借入の増加などにより「長期借入金」が138,288千円増加したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて、26.3%増加し、3,582,329千円となりました。

③ 純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1.5%増加し、3,823,371千円となりました。これは、主として、ストック・オプションの行使により「資本金」及び「資本剰余金」がそれぞれ24,777千円ずつ増加したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成26年5月8日に公表しました平成27年3月期の第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に変更はありませんが、今後業績予想の数字に影響を及ぼす事態が生じた場合は、すみやかに開示を行います。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,717,091	1,985,774
受取手形及び売掛金	2,077,511	1,889,530
商品	22,914	313,734
仕掛品	59,564	154,987
その他	258,605	428,129
貸倒引当金	△1,524	△1,229
流動資産合計	4,134,163	4,770,927
固定資産		
有形固定資産	168,452	161,813
無形固定資産		
のれん	698,910	778,140
その他	102,734	95,070
無形固定資産合計	801,644	873,210
投資その他の資産		
投資有価証券	1,057,971	1,074,159
その他	495,052	554,473
貸倒引当金	△56,418	△28,883
投資その他の資産合計	1,496,604	1,599,749
固定資産合計	2,466,702	2,634,773
資産合計	6,600,866	7,405,700

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	414,184	779,387
短期借入金	860,000	865,000
1年内返済予定の長期借入金	216,922	275,478
未払法人税等	262,125	58,100
引当金	55,074	47,455
その他	589,902	919,732
流動負債合計	2,398,208	2,945,153
固定負債		
長期借入金	393,104	531,392
引当金	—	5,706
退職給付に係る負債	37,652	91,079
その他	6,773	8,998
固定負債合計	437,529	637,175
負債合計	2,835,738	3,582,329
純資産の部		
株主資本		
資本金	825,482	850,259
資本剰余金	1,209,002	1,233,779
利益剰余金	1,815,060	1,814,724
自己株式	△119,453	△119,453
株主資本合計	3,730,091	3,779,310
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,365	16,360
為替換算調整勘定	6,183	5,608
その他の包括利益累計額合計	11,549	21,969
新株予約権	23,487	22,091
純資産合計	3,765,127	3,823,371
負債純資産合計	6,600,866	7,405,700

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	2,092,237	2,810,694
売上原価	1,485,916	2,026,687
売上総利益	606,321	784,006
販売費及び一般管理費	469,752	574,443
営業利益	136,568	209,563
営業外収益		
受取配当金	2,404	1,956
負ののれん償却額	1,901	1,901
その他	1,393	1,550
営業外収益合計	5,698	5,408
営業外費用		
支払利息	4,140	4,084
持分法による投資損失	23,303	10,074
その他	762	1,739
営業外費用合計	28,206	15,898
経常利益	114,060	199,073
特別利益		
固定資産売却益	7	148
事業譲渡益	13,500	—
特別利益合計	13,507	148
特別損失		
固定資産売却損	38	222
厚生年金基金脱退特別掛金	10,470	—
その他	113	51
特別損失合計	10,622	274
税金等調整前四半期純利益	116,945	198,948
法人税、住民税及び事業税	36,405	54,825
法人税等調整額	29,275	39,788
法人税等合計	65,681	94,613
少数株主損益調整前四半期純利益	51,264	104,334
四半期純利益	51,264	104,334

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	51,264	104,334
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,156	10,992
為替換算調整勘定	1,425	△658
持分法適用会社に対する持分相当額	—	86
その他の包括利益合計	8,582	10,420
四半期包括利益	59,847	114,755
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	59,847	114,755
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	情報サービス 事業	半導体事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,842,606	249,630	2,092,237	—	2,092,237
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,350	—	1,350	△1,350	—
計	1,843,956	249,630	2,093,587	△1,350	2,092,237
セグメント利益	289,770	18,212	307,983	△171,415	136,568

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用となっております。

2 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第1四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	情報サービス 事業	半導体事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,449,375	361,318	2,810,694	—	2,810,694
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,629	—	1,629	△1,629	—
計	2,451,005	361,318	2,812,324	△1,629	2,810,694
セグメント利益	386,334	31,711	418,045	△208,481	209,563

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用となっております。

2 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、株式会社メノックスの株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。

これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第1四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「情報サービス事業」において454,191千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結会計期間において、株式会社メノックスの株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。

これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントののれんの金額は、「情報サービス事業」において111,212千円増加しております。